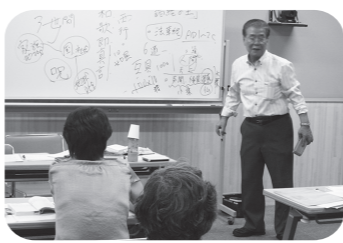


賢治文学って奥深い!!

かぬまマイ・カレッジ主催の「宮沢賢治の詩と童話の世界」の講座が8月28日(水)に市民情報センターで開催されました。講師は小林守城さんです。この日の受講生は15名でした。

宮沢賢治には、文学者・科学者・宗教家としての側面がありますが、今回は宗教家としての宮沢賢治にスポットをあて、「宮沢賢治入門」と題して賢治の宗教思想について学びました。この賢治の宗教思想を知ることが、賢治文学を読み解くうえで欠かせないことだそうです。

講座の中で、小林先生はいくつかの作品の中から重要な表現を抜き出して、賢治の宗教思想が反映された詩の奥深さを説明されました。例えば、『無声慟哭』という詩の中の「わたくしが青ぐらう修羅をあるいてゐるとき」という一節や、『イギリス海岸の歌』という詩の中の「たしかにこころは修羅のなきそ」等の一節は、自己を「修羅」と



認識していた賢治の修羅意識を、賢治独特の宇宙的な感性で表現しているといえます。そして講義は仏教の基礎となる法華経から、さらには賢治の幸福論へと展開されていきました。

このような解説をしてくださる先生の熱意に感えようと、受講生の皆さんが真剣なまなざしで授業を聞いているのが印象的でした。受講生の中には手都宮から通っている方もいて、「この講座ではいろいろな角度から賢治文学を解釈することを学ぶことができる」と話してくれました。

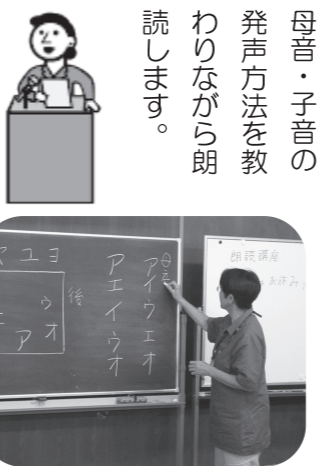
今回は「私の宮沢賢治」という本を出版された山内和子さんをお招きして、「賢治との出会い」というタイトルで小林先生とともに講義されます。宮沢賢治ファンにぜひお薦めしたい講座です。



「言葉を届ける」朗読は「コミュニケーション」

鹿沼市社会福祉協議会主催の「朗読講座」(全6回)の第1回目が9月10日(火)鹿沼市総合福祉センターで行われました。この講座は、おもに視覚障がい者のための朗読ボランティアを養成する目的で、十数年前から毎年開催されています。講師は初回から変わらず担当されている栃木放送パーソナリティーアナウンサーの臼井佳子先生です。今年のお受講生は15名。その半数近くはこれまでに何度も受講され、中にはすでにアナウンスや朗読のボランティアやサークルなどに携わっている方もいます。

まずは発声時の姿勢や聴き手との距離を大切にしながら、アイウエオの発声練習から始まりました。次に、講座テキストの早口言葉や朗読用の詩を、母音・子音の発声方法を教わりながら朗読します。



また、読む早さや声のトーンを変えたりしながら、隣の人と交互に読み合い、何度も繰り返し練習していました。参加されている皆さんの受講のきっかけは様々で、「孫に絵本を読んでもあげたくて、この講座に参加してみた」という方もおられました。また、「ひとつひとつの言葉をクリアに相手に届けるには、口の形や舌の動きを意識しながら発音することが重要だとわかった」とか、「いろいろなエッセイや作品を読むとき、その感動を聴き手に伝えたいと思う気持ちで言葉を発することが大切だと教った」などの感想が聞かれました。

第6回目の最終日には、ひとりの3分間程の朗読発表を予定されているそうで、講座を修了し上達された皆さんの成果がとても楽しみです。



押し花で仲間を作ろう!!

9月11日(水)に市民情報センターでかぬまマイ・カレッジ主催の「たのしい押し花」講座が行われました。講師は押し花インストラクターの土井節子さんです。受講生は9名の主婦の方でした。大変人気のある講座で、生涯学習大学で10年以上続いています。

この講座は、出会いの場を広げて同じ興味を持った仲間を作り、魅力ある手作りの作品を仕上げるのが目的です。受講生は各自で持参した押し花を、講師が事前に用意した下に絵に装飾することで、絵と押し花が調和した、いわば「押し花アート」を作っていきます。

受講生は、先生の作品をお手本にしながら、制作を進めていきます。まず、下絵の上に葉を飾っていきま



最後にコアジサイ、ガクアジサイ、テールキャットなど、自分の好きな色とりどりの花を飾っていきます。使う花や重ね方が各々異なるので、同じ下絵を使っているにもかかわらず、先生自身、「自分が教えるだけでなく、生徒さんからも学ぶことが多い」と、毎回の講座が勉強になっているそうです。受講生からも「先生が仕上げると全然違う。『魔法の手』のようだ」という意見も聞きました。先生の作るような押し花アートを目標として、皆さんでわきあいあいと作品を作っているのがとても楽しそうでした。



楽しく健康!

いま話題の「レクリエーション吹き矢」に挑戦!

生涯学習課主催の「さあ!男の出番です」3回シリーズの初回「レクリエーション吹き矢講座」が、9月27日(金)にまちなか交流プラザで開催されました。受講生は60歳代を中心に6名でした。

レクリエーション吹き矢とはいったいどのようなものか?本講座の講師を務める「とちぎレクリエーション吹き矢サークル」代表の橋田さんと副代表の大谷さんが最初に説明してくれました。レクリエーション吹き矢は、長さ1メートルほどの筒に矢を入れ息を強く吹いて飛ばし、7メートル先の的に当たります。技を競う面白さと集中力や緊張感を楽しむと同時に、腹式呼吸による酸素運動の効果も得られるのが特長とのこと。また、この2時間の講座で、脳の活性化、5kmウォーキング相当のカロリー消費や自律神経の強化など、健康にも非常に良いという話でした。



説明のあと、さっそく実技に移り

まず、まずインストラクターの黒子さんが基本動作の手本を示し、皆さんがそれに従います。そして実際に的を狙って矢を吹くと、最初は矢が的に届かず途中で失速したり、的から大きく外れたりしましたが、だんだん的中心近くに刺さるようになってきました。途中インストラクターが模範を示し、ほぼ満点に近い成績に歓声が上がりました。皆さんだいぶ慣れてきたところで模範競技が行われ、6人が真剣に競い、見事この日の最高点で1位になった方はとても満足そうでした。こうして充実した2時間が過ぎてゆきました。なお、この「レクリエーション吹き矢」は毎週木曜日午後1時から、同じまちなか交流プラザで無料体験もできるそうです。興味のある方はぜひ参加してみてください。いかがでしょうか。

